

病牀雜記

芥川龍之介

青空文庫

一、病中閑なるを幸ひ、諸雑誌の小説を十五篇ばかり読む。滝井君の「ゲテモノ」同君の作中にも一頭地を抜ける出来栄えなり。親父にも、倅にも、風景にも、朴にして雅を破らざること、もろこしの餅の如き味はひありと言ふべし。その手際の鮮かなるは恐らくは九月小説中の第一ならん乎。

二、里見君の「蚊遣り」も亦十月小説中の白眉なり。唯聊か末段に至つて落筆の憾みあらん乎。他は人情のか何か知らねど、不相変巧手の名に背かずと言ふべし。

三、旅に病めることは珍らしからず。(今度も軽井沢の寐冷えを持ち越せるなり。) 但し最も苦しかりしは丁度支那へ渡らんとせる前、下の関の宿屋に倒れし時ならん。この時も高が風邪なれど、東京、大阪、下の関と三度目のぶり返しなれば、存外熱も容易には下らず、おまけに手足にはピリン疹を生じたれば、女中などは少くとも梅毒患者位には思ひしなるべし。彼等の一人、僕を憐んで曰、「注射でもなすつたら、よろしうございませうに。」

東雲の煤ふる中や下の関

四、彼は昨日「小咄文学」を罵り、今日恬然として「コント文学」を作る。宜

なるかな。彼の健康なるや。

五、小穴隆をあんりゆういち一、軽井沢の宿屋にて飯を食ふこと五椀ごわんの後女中の前に小皿を出し、「これに飯を少し」と言へば、佐佐木茂索ささきもさく、「まだ食ふ気か」と言ふ。「ううん、手紙の封をするのだ」と言へど、茂索、中中承知せず「あとでそつと食ふ気だらう」と言ふ。隆一、慥然ぶぜんとして、「ぢや大和糊やまとのりにするわ」と言へば、茂索、愈承知せず、「ははあ、糊のりでも舐なめる気だな。」

六、それから又玉突き場たまつきばに遊びゐるたるに、一人の年少紳士しんしあり。僕等の仲間に入れてくれと言ふ。彼の僕等に対するや、未だ嘗いまかつて「ます」と言ふ語尾を使はず、「そら、そこを厚く中あてるんだ」などと命令すること屢しばしばなり。然れどもワン・ピイスを一着したる佐佐木夫人に對するや、慇懃いんぎんに礼を施して曰いはく、「あなたはソオシアル・ダンスをおやりですか？」佐佐木夫人の良人即ち佐佐木茂索、「あいつは一体何ものかね」と言へば、何度も玉に負けたる隆一、言下ごんかに正体を道破して曰いはく、「小金こがねをためた玉ボオイだらう。」

七、軽井沢かるゐざはに芭蕉ばせをの句碑くひあり。「馬をさへながむる雪のあしたかな」の句を刻す。これは甲子吟行中の句なれば、名古屋あたりの作なるべし。それを何ゆゑに刻したるにや。因ちなみに言ふ、追分おひわけには「吹き飛ばす石は浅間あさまの野分のわきかな」の句碑あるよし。

- 八、軽井沢の或骨董屋の英語、——「ジス・キリノ（桐の）・ボックス・イズ・ベリ
イ・ナイス。」
- 九、室生犀屋、碓氷山上よりつらなる妙義の崔嵬たるを望んで曰、「妙義山と
言ふ山は生姜に似てゐるね。」
- 十、十項だけ書かんと思ひしも熱出でてペンを続けること能はず。

（大正十四年十月）

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

病牀雑記

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>